

セリ科 ウマノミツバ属

# ウマノミツバ (馬の三葉)

*Sanicula chinensis* Bunge

## 自生環境

山林

## 原産地

日本在来

## 生育を脅かす要因



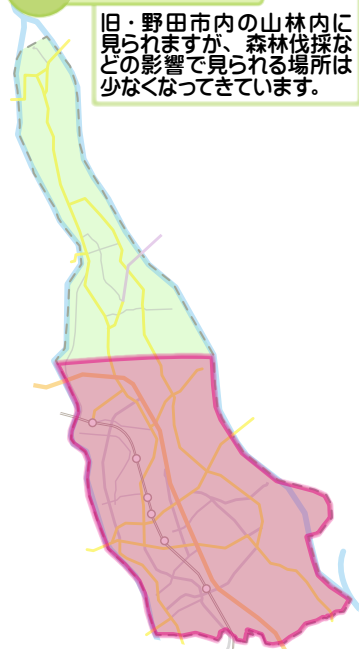
やや自然度の高い山林に生えます。ただ最近ではササ類の繁茂や不法投棄で林内が荒れたり、山林そのものが開発されたりと、市内の生育状況はあまり良好とは言えません。

## 特徴

- ☆ 山地の林内で、薄暗くてジメツとしたような場所に生える多年草です。ミツバの名前はありますが、ミツバとは別の仲間で、食用にはなりません。葉は3つに深く裂け、さらに2つに浅く裂けるため、5つ葉のように見えます。
- ☆ 草丈は30～80cmで、茎はすっと立ち上がり、上部でいくつか枝分かれます。夏、茎の先に小さな白い花を咲かせます。花の下には子房（やがて果実になる部分）がありますが、花はそれよりもはるかに小さいため、咲いていても目立ちません。
- ☆ 果実にはびっしりと刺が生えていますが、さわっても痛くはありません。先はかぎ爪状になっていて、動物の体にひっかかるようにしてくっついてあちこちに運ばれていきます。

## 市内の分布状況

旧・野田市内の山林内に見られますが、森林伐採などの影響で見られる場所は少なくなっています。



## じつはウシミツバもある

ウマノミツバは、見た目がミツバに似て、食用にならないため「馬に食べさせるようなミツバだ」として名前がつけられました。ミツバとありますが、ミツバ属とは別のグループに分類される種類です。じつはそれとは別に、ミツバの一品種としてウシミツバがあります。これはミツバのうち、切れ込みがより多く、ギザギザして見えるものを言います。なぜ牛なのか分かりませんが、これは食べられます。

